



サッカー部 2017 インターハイ準優勝



昨年の夏に宮城県で行われた全国高校総合体育大会(インターハイ)において本校のサッカー部が準優勝という輝かしい成績を残しました。インターハイ決勝までについて報告させていただきます。

1回戦の対戦校は奈良県的一条高校、34分に柏木君(3年)が先制点を決め、後半はその1点を守り初戦突破、次の2回戦の対戦校は優勝候補の一角である埼玉県代表の昌平高校、前半主導権を握つ

た昌平高校、32分に先制点を許した。しかし後半に入るに反撃を開始、58分に三田野君(3年)が同点を決め、さらにその後オウンゴールにより、わずかに1分で逆転に成功した。その後の猛追があったが守りきり、2回戦を突破した。

3回戦の相手校は山梨県代表の帝京第三高校、前半0-0のまま後半に62分に小屋原君(3年)、77分にギブソン・マローン君(3年)がそれぞれ決め、3回戦を突破、準々決勝の相手校は北海道代表の旭川実業高校、前半は先制されたが30分に桐君(3年)が1点を返し後半へ、70分にコナーキックから梶山君(2年)が決め2-1、これを守り準決勝に駒を進めた。

準決勝の相手は強豪の千葉県代表の市立船橋高校で前半から攻勢をしかけてきた。しかし日大藤沢もそれに対抗、後半を迎え23分に1点を奪われ苦しい展開が続いたが、進展がないままにアディショナルタイムに、誰もが敗戦を覚悟したとき、菊地君(3年)のボレーシュートがゴールネットに突き刺さり、土壇場で試合を戻した。そしてPK5人全員成功で決勝に進出。

いよいよ決勝戦、相手は2008年に優勝して千葉県代表の流通経済大学付属柏高校は前半から攻勢をしかけていく。それに日大藤沢は粘り強い守りで跳ね返す。そして後半終了間際相手に1点を奪取られ、これが決勝点となった。この時期の猛暑と過酷な日程、選手は最後まで戦いぬくことができた。これも選手一人一人の地道な努力、応援し続けた部員、そして顧問の佐藤輝勝先生とコーチ陣の取り組みにより成し遂げることができた。また優秀選手として、柏木君(3年)、安松君(3年)、梶山君(2年)、比留間君(2年)の4人が選ばれた。最後に今後のサッカー部の活躍、これよりも良い結果になることを期待したいです。

日大藤沢高等学校 サッカー部
2017年 全国高校総合体育大会(インターハイ)成績

	日程	本校	結果	相手校
1回戦	2017年7月29日	日大藤沢(神奈川)	1-0	一条(奈良)
2回戦	2017年7月30日	日大藤沢(神奈川)	2-1	昌平(埼玉)
3回戦	2017年7月31日	日大藤沢(神奈川)	2-0	帝京第三(山梨)
準々決勝	2017年8月2日	日大藤沢(神奈川)	2-1	旭川実業(北海道)
準決勝	2017年8月3日	日大藤沢(神奈川)	1-1 (PK 5-3)	市立船橋(千葉)
決勝	2017年8月4日	日大藤沢(神奈川)	0-1	流通経済大柏(千葉)



活躍する『日大藤沢』卒業生

今回紹介する武紘一氏は、本校を昭和34年に卒業した。武氏は本校の柔道部出身で、卒業後東海大学工学部応用理学科に進まれ、初代柔道部主将を務めました。同氏は防音材の研究により、発明大賞を受賞、さらに文部科学大臣表彰で科学技術賞「技術部門」を受賞されました。石井通義元校長から楠本教頭あてに資料が送られたのは平成28年7月のことです。ぜひとも武氏のことを同窓会報に掲載してほしいとの依頼がありました。石井前校長が昭和35年卒の同期会に出席した折に同級生の高橋正人氏から話を伺ったことから今回の紹介となりました。同窓会報でも以前には活躍するOB・OGを数多く紹介していましたが、本号から復活することとなりました。本来なら30号で掲載する予定でしたが、紙面の都合で本号となりました。同窓生の方で活躍するOB・OGをご存知の方は事務局まで情報を提供いただけましたら幸いです。(文責 柳澤)

武 紘一
(昭和34年卒)



武 紘一
プロフィール

発明の土台となった東邦化学工業株式会社 技術部時代
ウレタン樹脂の開発「断熱材」を担当

- 技術歴**
- ① 1971年(30歳)の日刊工業新聞社が発行した「工業材料」に、ウレタン業界を代表して、開発成果「断熱材」(全9ページ)の掲載
 - ② 現天皇陛下の皇太子時代に、「ウレタン発砲の実演」を三保造船所視察の時に披露した。(昭和44年頃、ウレタンは漁船の冷凍庫に断熱材で使用)
 - ③ 平成元年JIS制定の「吹付けウレタン断熱材」原案作成委員
以上東邦化学時代
 - ④ 平成23年度 土木学会「環境賞」、機械学会「技術賞」
 - ⑤ 平成27年度 発明大賞本賞受賞

- 大学時代略歴**
- 1959年 東海大学工学部入学/専攻:応用理学科工業化学
 - 1961年 柔道部主将
東京学生第2部柔道部優勝大会団体3位入賞(柔道部創設初入賞)
 - 1962年 体育会会長(体育会常任委員長)
大学創立20周年記念学生代表祝辞(元総理片山哲他著名人多数の席)
創立20周年記念「静岡県三保一代々木校舎」間苗木ルーニー実行委員長
創立20周年記念体育祭実行委員長
 - 1963年3月 卒業式答辞

工学部の卒業生が 平成29年度の文部科学大臣表彰で 科学技術賞を受賞しました

東海大学のオフィシャルサイトより

工学部応用理学科(工業化学専攻)を1962年度に卒業した武紘一さんがこのほど、文部科学大臣表彰で科学技術賞「技術部門」を受賞。4月19日に文部科学省で表彰式が催されました。同賞は、科学技術に携わる研究者、開発者の意欲や日本の科学技術水準の向上を目指し、顕著な成果を収めた開発者に贈られるものです。

武さんが開発したのは、「吸音性に優れた通気性サンドイッチパネル」という防音材で、吸音特性を生け花の剣山に使われている吸水性の硬質フェノールフォームに見出したのです。従来の防音材は、グラスウールという繊維系吸音材が使われており、この材料は柔軟で低周波音を吸収しないという短所がありました。武さんは、軽量で、吸音に適した硬質フェノールフォームに着目。この材料は脆いため工業材料には不向きとされてきましたが、脆さを逆利用し、蜂の巣状のハニカム材に押し込むことでその弱点を克服し、商品化へと至りました。

2006年には基本となる特許を取得し、高速道路や輸送機器工場、一般住宅等の騒音対策に、又音響分野



平成29年度文部科学大臣表彰
科学技術賞「技術部門」

では音質向上などで使用されています。2011年に発生した東日本大震災の際には、仮設住宅の騒音対策に防音材を無償で提供し、騒音被害の解消がテレビや新聞をはじめ多くのメディアで取り上げられました。さらに、15年には日本発明振興協会と日刊工業新聞社が共催する発明大賞で最高位の本賞も受賞しています。

武さんは、「在学時代には研究部と同時、柔道部の3代目主将や体育会常任委員長を務めた中



表彰式にて

「東海大学のオフィシャルサイト」 2017年6月20日



「発明と生活」 2015年5・6月号

第40回発明大賞・授賞者代表挨拶 「発明研究奨励金」をいただき、防音材分野で、 吸音性能及び遮音性能を研究

発明大賞本賞受賞 株式会社静科 経営企画室室長 武 紘一

私の発明は、サンドイッチ構造による防音パネルと、その製造方法にあります。科学の世界では、発明は、「材料あるいは反応条件」の工夫から生まれることが多くあります。私が選択した材料は、女性なら誰でも知っている「生け花用の剣山」です。この材料は、硬質フェノールフォームという合成樹枝の発泡体であり、「軽い、燃えない、吸音に適した多孔材」との長所がある反面、短所として「脆い、水を吸う」があり、工業材料には不向きであると、片付けられていました。発明では、短所について、解決手段を見出すことが重要です。材料の「脆さ」については、ハニカム材の空間に押し込むことで解決する方法を試みました。やってみると、フォームが壊れず、抵抗なく充填できたのです。次に「吸水性」については、水溶性接着剤の硬化を促進させる「水分吸収剤」として、逆利用しました。この技術は、平成18年5月に特許登録されました。

特許登録されても、その価値が世間に認められることが重要です。価値を証明するための資金を模索していた時に目に入ったのが、日刊工業新聞に掲載された日本発明振興協会の「発明研究奨励金」の案内です。早々に応募し、交付して頂きました。

次の段階は、商品に値する性能を実現することでした。材料の実現方法が、特許登録されただけでは売れません。しかし、発明商品が世に出る機会が、突然にやってきました。東日本大震災の仮設住宅で、騒音の苦情があることを新聞で知り、防音材料を無償で提供したところ、騒音が解消され、新聞にも報じられました。騒音を解消する技術は、TBSの番組「夢の扉」で取り上げられ、震災翌年の4月15日に全国放映されたのです。放映後、注文が殺到し、技術及び商品が一気に世に知られることになりました。

発明研究奨励金の交付を受けた2年後に、成果に関する調査がありました。その際に、奨励金の委員の方から「今日は誠に有難うございます」との励ましのお言葉を頂きました。昨年、実績をまとめ、応募をいたしました。現在は、国内12件、海外2件の特許登録をいたしました。商品は、用途別、周波数別に10品種を品揃えし、お客様がカタログ及びネットから選んでいただけるように整えました。本技術は、工場機器から発生する騒音、住宅の生活騒音、高速道路のジョイント騒音等、低周波数を含めた騒音の解消、また音楽分野にも貢献できております。

社内の後継者も育ち、昨年は、大量受注にも対応できる、本格的な製造工場を所有することができました。本年は、「発明大賞40周年記念」、また「日刊工業新聞が創刊100周年記念」の年ですが、弊社も創立10周年を迎えました。発明者として、この節目の年に、この席に立たせて頂き、感激しております。

賞を汚すことなく精進し、副賞は更なる技術開発に、使わせていただきます。

本日は誠に有難うございます。

「発明と生活」 2015年5・6月号 掲載

友情の絆を 結ぶ同期会

同じ学舎で青春を謳歌した同期生。再会し、昔を回顧し語り合う楽しさ、再び友情を確かめ合うのが同期会です。同期会での結束が同窓会の発展にもつながります。ぜひ、皆さまも積極的に同期会を開きましょ。

第25期卒業生同期会開催報告

熊田成之(昭和52年卒)

日時:2017年3月19日(日)13:00~16:00
場所:NIJYUIMARU横浜本店

19クラス全体同期会を開催しようとして声を掛け合い、幹事数人で準備に3年、卒業して42年目に19クラス全体同期会がようやく開催することができた。

大和田氏(サッカー部)の司会進行、三塚氏(サッカー部)の幹事代表挨拶、恩師高松先生よりご祝辞を頂戴し、熊田(吹奏楽部・日大藤沢同窓会副会長)から学校近況報告を行って、三塚氏の乾杯でスタート。懐かしい顔ぶれに学ラン時代を思い出し、35名は高校時代へとタイムスリップした。あつという間に3時間は過ぎてしまい、濱田祐子さん(演劇部)の音頭で校歌斉唱。加藤氏(13組幹事)より次回もまた元気に会おうと三本締めを行ってお開きとした。



同期会の様子

同窓会委員会再編 6委員会を3委員会へ正式に決定しました。

同窓会特別委員会が正式に決定しました。会長・副会長・常任幹事計13名で平成29年8月19日(土)に横浜市栄区にある会場にて打ち合わせがありました。30号でお知らせしました4委員会について審議したところ、組織運営委員会に運営することは、

特別委員会で行うことに異議があることから委員会は設置せず、総務委員会・企画委員会・広報委員会の三本柱でより活発な活動を目指すことになりました。総務委員長には、石井敦氏(昭和53年卒)が、企画委員長には、飯田昌巨氏(昭和38年卒)が、広報委員長には私、

(文責 柳澤)

同窓会特別委員会が正式に決定しました。

柳澤が就任することになりました。各委員会とも委員の数が大変少ないことから、委員の獲得にも力を入れます。興味のある方はぜひ委員会に参加していただきたいと考えております。

特別委員会

総務委員会			
役職	氏名	卒業年	
委員長	石井 敦	昭53	
	草間 裕美	平04	
	塩沢 次郎	平04	

企画委員会			
役職	氏名	卒業年	
委員長	飯田 昌巨	昭38	
	津島 哲夫	昭46	
	河村 敏明	昭48	
	山田 志郎	昭61	

広報委員会			
役職	氏名	卒業年	
委員長	柳澤 昭夫	昭53	
	柴田 幸雄	昭42	
	柴田 博和	昭51	
	野崎由紀一	昭52	

平成29年8月19日(土)特別委員会 委員

役職	氏名	卒業年	支部
1 会長	坂井 太	昭61	横浜
2 副会長	井上 蔚美	昭36	湘南
3 副会長	長瀬 英夫	昭36	藤沢
4 副会長	田淵 秀一	昭41	西湘
5 副会長	柴田 幸雄	昭42	鎌倉
6 副会長	津島 哲夫	昭46	横須賀
7 副会長	熊田 成之	昭52	横浜
8 副会長	杉崎 隆之	昭58	茅ヶ崎
9 副会長	市川 和広	平02	藤沢
10 常任幹事	飯田 昌巨	昭38	横浜
11 常任幹事	米山 信治	昭47	西湘
12 常任幹事	柴田 博和	昭51	横浜
13 常任幹事	野崎由紀一	昭52	藤沢
14 常任幹事	柳沢 昭夫	昭53	横浜
15 常任幹事	石井 敦	昭53	藤沢
16 常任幹事	下川 幹生	昭53	西湘
17 常任幹事	山田 志郎	昭61	横浜
18 常任幹事	石田 智子	平02	藤沢
19 常任幹事	角南 一菜	平02	横浜
20 常任幹事	山本 昇平	平02	湘南
21 常任幹事	吉野 道夫	平02	茅ヶ崎
22 常任幹事	草間 裕美	平04	藤沢
23 常任幹事	塩沢 次郎	平04	横浜
24 常任幹事	青木 慶太	平08	鎌倉

日本大学藤沢高等学校・中学校同窓会委員会一覧(案)

委員会名	活動内容
広報委員会	4 ホームページ掲載にかかわる学校との調整
企画委員会	3 各種行事の運営管理 2 新規事業の企画立案 3 各支部行事の支援
総務委員会	1 総会・常任幹事会の運営管理及び議事録の作成管理 2 会員名簿の管理 3 同窓会室の運営管理 4 会計にかかわる学校との管理運営

現行 日本大学藤沢高等学校・中学校同窓会委員会一覧

委員会名	活動内容
総務委員会	事業計画の立案と実施 常任幹事会における議事進行議事録
会報編集委員会	同窓会報の発行 その他会報の発行
学校連絡委員会	学校行事に対する対応 文化祭時の同窓会コーナーや卒業を祝う会等
住所録委員会	会員住所録の整理 ならびに追跡調査 総会案内状の名簿作成
ホームページ委員会	同窓会ホームページの運営 掲載事項の検討など ホームページに関する全般
企画委員会	同窓会として新企画の提案 特別事業の計画ならびに実行

常任幹事募集

同窓会は、顧問・会長・副会長・常任幹事の役員で構成されています。これに同窓会を担当する教職員がおります。定期的に常任幹事会を開き、会の運営を行ってまいります。平成29年度は、第1回が4月22日に、第2回は定期総会の1週間前の5月20日に開催し、5月27日に総会を実施し、第3回は役員忘年会も兼ねて11月25日に行いました。8項に記載されている役員名簿をご覧になってお分かりの通り役員の高齢化が見て取れます。昨年度からは平成卒の同窓生が常任幹事として活動を開始しました。常任幹事会の模様は写真をご覧ください。また、同窓会には各委員会と地域ごとに支部が構成されています。常任幹事をやってみたいとお考えの同窓生は、最寄りの支部長や支部役員にお気軽にお声かけください。常任幹事会の手続きは、承を経て常任幹事になっていただきます。通常、常任幹事は年度に3回行われますが、緊急の案件処理のため臨時の幹事会を行うことがあります。同窓会の役員をためらっている同窓生ややりたくないと考えている同窓生は多々いると思います。学校の近況がわかることなど得るものも多々あります。昨年度から常任幹事会

同窓会室便り

30号で紹介した同窓会室のその後ですが、三役会をはじめ、さまざまな打ち合わせに使用する同窓会室となりました。同窓会予算で新たに冷蔵庫を購入し、かなり古くなった空調機を学校の子算で取り換えていただきました。同窓会室は、同窓生皆さんのお越しの際はぜひとも立ち寄ってみてください。高校本館1階の事務室で手続きをすれば鍵を受け取ることが出来ます。室内には、アルバムをはじめ、学校の資料が沢山あります。同窓会顧問である小菅昭治(昭和39年卒)さんが第6代会長の時に学校とかけあって設けられた同窓会室です。これから



同窓会室利用の様子



常任幹事会の様子

でも若手常任幹事などのように増やすか、世代交代の話など、世代交代の話やいかに楽しい同窓会にしたいかという話が出るようになります。やはり同窓会は同窓生がいかに楽しめるかの会であってほしいですね。常任幹事は常時募集してまいります。特に若手の方の参加を期待しています。若手の方が入ることによって同窓会も活性化されていくものと考えています。

